

## 2) 新薬・効能追加等情報

### ● 医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱いについて

社会保険診療報酬支払基金が設置する「審査情報提供検討委員会」による医薬品の適応外使用の事例に関する検討の結果、新たに追加された事例 (平成31年4月22日付)

・支払基金ホームページ (審査情報提供事例) <https://www.ssk.or.jp/shinryohoshu/teikyojirei/yakuzai/index.html>

標榜薬効	成分名	主な製品名	使用例	留意事項
その他の腫瘍用薬	オキサリプラチン【注射薬】	エルプラット点滴静注液50mg、同100mg、同200mg、他後発品あり	原則として、「フルオロウラシル、レボホリナートカルシウム、オキサリプラチン【注射薬】」をFOLFOX療法として「食道癌」に対して投与した場合、当該使用事例を審査上認める。	当該使用例の用法・用量  (1)オキサリプラチン 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはオキサリプラチンとして85mg/m <sup>2</sup> (体表面積) を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも13日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。  (2)レボホリナートカルシウム・フルオロウラシル 通常、成人にはレボホリナートとして1回200mg/m <sup>2</sup> (体表面積) を2時間かけて点滴静脈内注射する。レボホリナートの点滴静脈内注射終了直後にフルオロウラシルとして400mg/m <sup>2</sup> (体表面積) を静脈内注射するとともに、フルオロウラシルとして2400mg/m <sup>2</sup> (体表面積) を46時間かけて持続静脈内注射する。これを2週間ごとに繰り返す。 なお、年齢、患者の状態などにより適宜減量する。
解毒剤	レボホリナートカルシウム【注射薬】	アイソボリン点滴静注用25mg、同100mg、他後発品あり		
代謝拮抗剤	フルオロウラシル【注射薬】	5-FU注250mg、同1000mg、他後発品あり		